

寺報

平成三十年八月
第八十号

正念寺護持会発行

常陸太田市久米町二十一

電話 〇二九四一七六一二〇五八

FAX 〇二九四一七六一〇一六九

鹿兒島のかくれ念仏

皆さまは、隠れキリシタンという言葉は聞いた方が多いかと思えます。それは、江戸時代キリスト教が禁止されていた時代に、キリスト教の教えを信じ、そして隠れながらも守り継いでいったキリスト教徒の人達を指す言葉です。しかし、かくれ念仏という言葉は、始めて聞くという方が多いのではないのでしょうか。

かくれ念仏とは、文字通りお念仏の教えを密かに隠れて信仰していた事を指しています。これは、まず人吉藩(現熊本県南部)において弘治元年(一五五五年)、法度に真宗禁教を追加したことに始まります。その後薩摩藩(現鹿兒島県と宮崎県の一部)が慶長六年(一六〇一年)に正式に禁止しました。これらの藩では、およそ三百年にわたり真宗の教えが禁教になっていたので、隠れて信仰せざるを得なかったのです。もちろん真宗信者である事が知られれば、割木の上に正座をさせられ、石を積み重ね、その石を役人が左右に揺らすなどと言った過酷な刑罰が待っておりまし



それほどまでして真宗の教えを禁止していたのは、藩主が真宗信者の団結を恐れていたからでしょう。加賀藩(現石川県)は、百姓の持ちたる国と呼ばれていたように、真宗信者を中心として百年近く治めておりました。また、大阪石山(現大阪城)に本願寺があった時

には、織田信長と十年にわたる戦いもありました。そういったことから、真宗信者の団結力を恐れていたのが原因でしょう。

その様な状況でしたから、信者の人達は信仰の対象である像は、隠して護らなくてはなりませんでした。その為に考案されたものが、傘の形の桐材の容器に阿弥陀如来や親鸞聖人の掛け軸を収めた傘仏であったり、まな板に似せた蓋つきの薄い木箱に本尊の掛け軸を納めたまな板仏、見かけは箆筒ですが、扉を開くと金色に輝く隠し仏壇などが作られました。また、ガマと呼ぶ洞窟などによる集まるなどして信仰を護り続けました。

この禁教は、明治九年九月五日に「信教の自由令」が出されるまで続きましたが、実は薩摩藩では、藩主の島津斉彬が先頭に立つて廃仏毀釈を進めたため、島津家の菩提寺を含む一六一ヶ寺のすべての寺院が打ち壊され、すべての寺が無くなりました。今鹿兒島に行くと、神社の参道入口に仁王像が建っていると、そこなどは廃仏毀釈により寺から神社に変わったところだろうと想像できます。もちろん先に書いたように真宗は禁教になっていたため、真宗寺院は元々全くありませんでした。その様な状況の最中、明治九年に真宗の禁教が解きましたから、仏教が空白状態の地域ととなった旧薩摩藩において、浄土真宗本願寺派が布教活動を推し進め、結果として鹿兒島県は、しばらくの間、寺と言えば浄土真宗の寺院だけという状態になりました。



寺院巡り旅行のご報告

五月三十日から三十一日にかけて、築地本願寺から千葉勝浦方面に寺院巡りの旅に行ってきました。

あいにく参加者は十六名とチョット寂しかったのですが、築地本願寺から千葉県勝浦温泉に泊まり、二日目は誕生寺から大山千枚田、そして市原市の弘教寺様と楽しい旅が出来ました。



誕生寺の階段を上る皆さま



海ほたるで寛ぐ皆さま



都心から一番近い大山千枚田



宿泊した鴨川館

表彰式前の仏参



競技中の様子

表彰式後の食事会



表彰式と優勝者會澤洋子さん

グラウンドゴルフ正念寺杯ご報告

四月十日に正念寺からほど近い堀江さんという個人で開設しているグラウンドゴルフ場で第一回の正念寺杯を行いました。和気藹々と楽しい時間を過ごすことが出来ました。

その後正念寺へ戻り、表彰式と食事会を行いました。第一回の優勝は、門部下河原の會澤洋子さんになりました。

初参り



6月2日参拝
堀江彩菜(あやな)さん
堀江優菜(ゆうな)さん



5月12日参拝
小澤海誠さん
小澤優依ちゃん
小澤美菜穂さん



4月8日参拝
鬼澤愛佳(あいか)さん



6月17日参拝
浅川美紗希(みさき)さん
浅川夢幸(みゆき)さん
浅川星輝(としき)君



七夕コンサート

七月七日、ご門徒でもありオペラ歌手でもある「天下井朱美」さんをお迎えして七夕コンサートを開催いたしました。これまでお寺になかなかご縁の持てなかった方にも来て戴きたい、との思いで初めて開催いたしました。
お陰さまで、六十名を超える方々に集って戴きました。当日いらした方には、回り廊下まで使って聴いて戴きました。本当にありがとうございました。



演奏会の時の写真



感謝録

ご寄付を戴きました事に感謝を込めてご報告させていただきます。

一、永代経として

金 参拾万円

箕川 明様

一、義母の永代経として

金 貳拾万円

小坪 一恵様

一、母の永代経として

金 貳拾万円

橋本 弘幸様

七月七日に行った七夕チャリティコンサート『星まつりの宵に』において、聴衆の方々や歌って戴いた天下井朱海さんなどから沢山の募金を戴きました。七月十八日に「茨城新聞社」に無事届けさせて戴きました。

お陰さまで七万七千二百円にもなりましたので、西日本の大雨による大災害への義援金として使ってくださいるようお願いして戻って参りました。

※七月二十日付茨城新聞に掲載されました。

七月六日に、『星まつりの宵に』チャリティコンサートに併せて、玄関入り口の花が新しくなりました。

一昨年より、自作のパンフラワーアートを玄関口に飾って下さっている荻津佐知子さんが、今回はコンサートに併せて『ウェルカムボード』とともに、向日葵のパンフラワーを飾って戴きました。シーズン毎に色々な作品を飾って戴いております。寺にいらつしやつた折には、是非この作品も見えていって下さい。



住職雑感

今年は、例年よりも梅雨入りも早ければ、梅雨明けも早かったようです。その為か、既に暑い毎が続いております。

ところで、昨年暮れから今年の三月にかけては、日本各地で豪雪による被害が報告されました。とくに二月十三日の山形県大蔵村の肘折温泉では、四四五cmを記録しました。この豪雪は、ラニーニャ現象の影響、たとも言われました。

雪が一段落ついた四月九日には、島根県で大きな地震が起き、最近では大阪北部でも震度六弱の地震が起きました。そして七月の多くの死者を出した西日本の大雨による大災害。

私たちの住む茨城県は、雪の被害はほとんど無い地域ですが、地震は先の東日本大震災を挙げるまでも無く、大小問わず以前から結構多い地域です。備えあれば憂いなし、とは昔から言われる言葉ですが、本当にその通りだと思えます。普段から、地震に限らず自然災害に対する備えをもう一度見直した方が良いのかも知れません。

いのちは、一度失ったら二度と戻らないものです。そしてそのいのちは、沢山のご縁によって支えられているのちです。

ご縁によって支えられたいのちを、お互い大切にこれからも生きて行きたいものです。